



前号に続く短歌で快挙！のご紹介です。

本校3年生の森高天太さんが、令和3年度第十四回広島県立三次（みよし）中学校・高等学校全国短歌大会 高校生の部で、見事『中村憲吉青春短歌賞（第1位）』を受賞しました。まずは、受賞の作品と、選者の先生の選評をご紹介します。

『中村憲吉青春短歌賞（第1位）』 森高 天太さん
「爆弾をみたことのない僕達は
なにもしらずに目を背けてる」

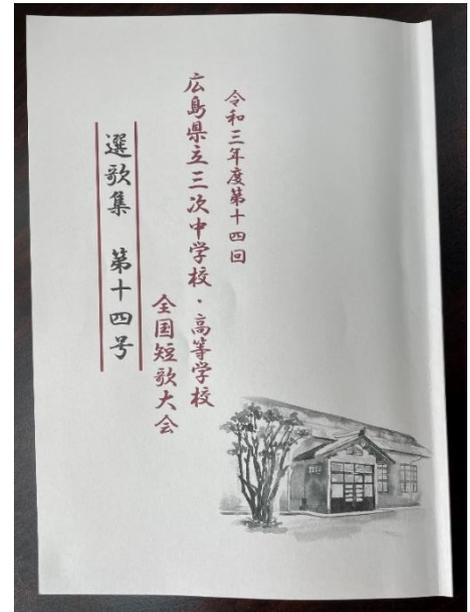
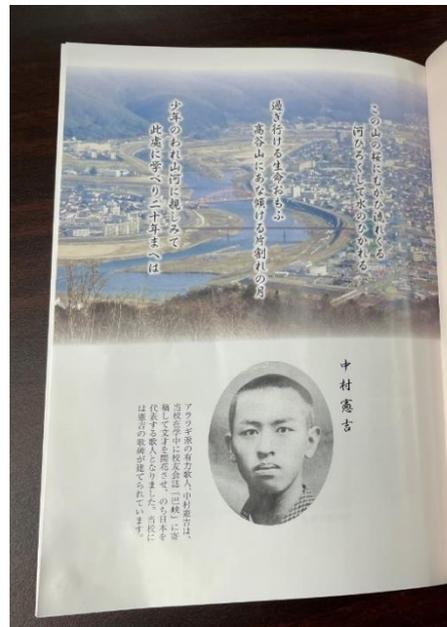
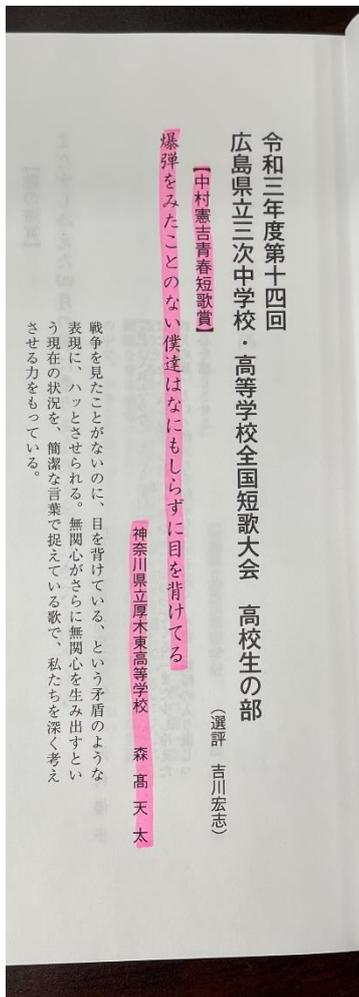
戦争を見たことがないのに、目を背けている、という矛盾のような表現に、ハッとさせられる。無関心がさらに無関心を生み出すという現在の状況を、簡潔な言葉で捉えている歌で、私たちに深く考えさせる力をもっている。
(選評 吉川 宏志)

吉川宏志先生は、短歌会「塔」を主宰し、数々の賞を受賞されている著名な日本の歌人です。

また、中村憲吉先生はアララギ派の有力歌人で、高校在学中に交友会誌「巴狭」に寄稿して文才を開花させ、のちに日本を代表する歌人となった方です。

この短歌の全国大会は、広島県立三次^{みよし}高等学校が創立110周年を記念して、同校の同窓生である歌人中村憲吉を記念して「あなたの想いを歌に託そう」というテーマで全国の中高生に呼びかけ、若い世代への短歌の普及を目指すことを目的に始まったものだそうです。

本大会の開催は今年度で第14回を迎え、全国の小中高生から集まった8,996首の短歌から、なんと本校生徒の作品が、1位の『中村憲吉青春短歌賞』に輝いたものです。本当に名誉あることです。素晴らしい挑戦！おめでとうございます！



もう一首入選作品をご紹介します。

『入選』 3年 奥田 哲矢さん

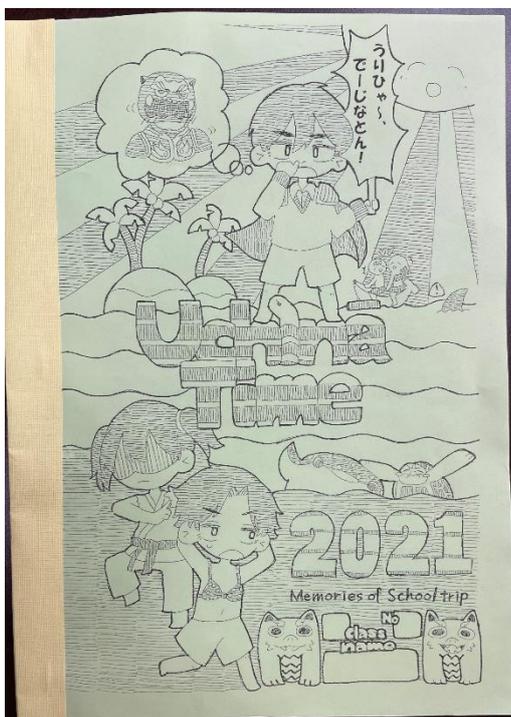
「この空を見上げてみれば快晴で
キノコ雲などおもかげもない」



ロシアがウクライナに侵攻し、一般市民が犠牲になるなど大変心の痛む状況に陥っています。核の恐怖や世界平和の危機は増大するばかり、私たちの未来がとても心配です。

ある教育者は「**学校教育は平和を築くためにある。**」と言いました。私も同意見です。本校でも永年、沖縄修学旅行などをおして平和学習を行ってきましたが、こうした短歌の活動も本校の学びの大切な宝です。

東高生の皆さんには、**世界の情勢や政治・経済に自分事として関心を持ってほしい**です。そして、**新成人 18 歳になったならば、選挙には必ず行ってほしい**と思います。



コロナ禍で身に染みたように、何事も当たり前ではありません。

そう、「平和」でさえも。

Nothing should be
Taken for Granted.....



75 期生作成 Uchina Time 2021
(修学旅行記念文集)